

NISSHA (コード 7915)

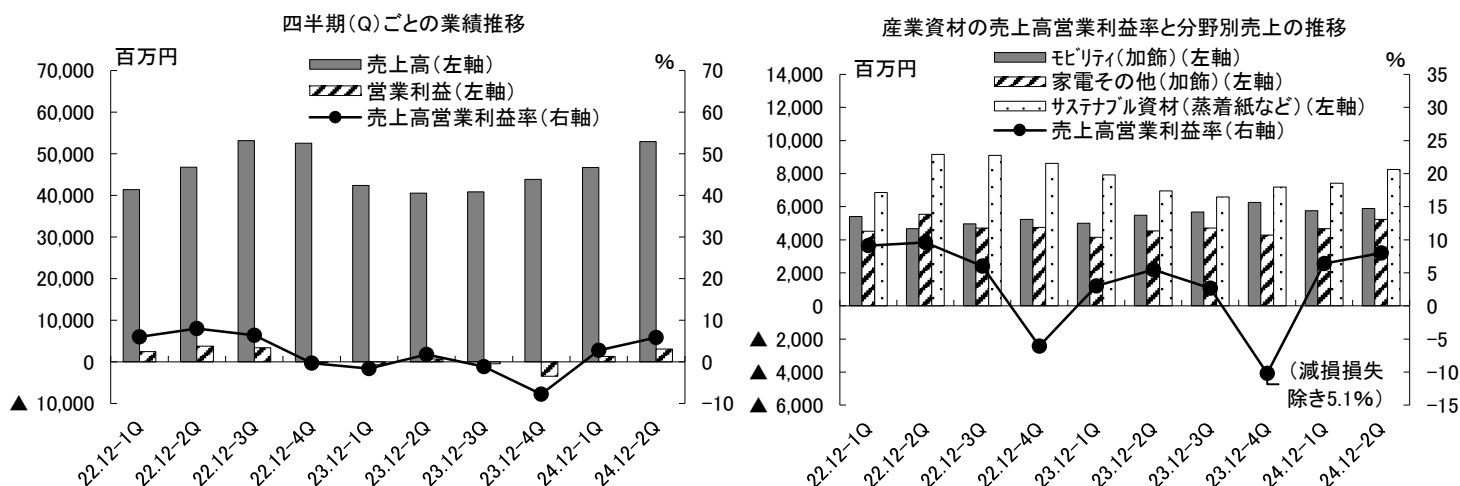
◆各決算期の中間期業績推移(連結)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
22.12	88,217	6,267	158.6	15.0	3,381	▲3,320	▲1,014	45,028
23.12	83,005	58	16.4	25.0	▲1,282	▲4,144	▲4,252	46,861
24.12	99,661	4,405	90.2	25.0	10,879	▲13,260	5,810	44,917

◆通期業績推移(連結) (24.12 予は会社側予想)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
22.12	193,963	9,520	203.7	50.0	12,039	▲4,385	1,082	54,325
23.12	167,726	▲3,817	▲61.1	50.0	1,486	▲8,019	▲12,629	37,854
24.12予	196,600	8,100	136.4	50.0	—	—	—	—

(CF=キャッシュ・フロー。現金及び現金同等物は各期末値。▲はマイナス。単位は百万円、円)



24年12月期中間期の業績概況…24年12月期の中間期(24年1~6月)は、産業資材、デバイス、メディカルテクノロジーの各事業とも好調に推移したことから、前年同期実績に比べて売上高は約20%増加し、営業利益は大幅に伸長した。

当期の売上高は996億6,100万円(前年同期比20.1%増)、営業利益は44億500万円(同7,461.2%増)、税引前利益は61億4,700万円(同465.2%増)、親会社の所有者に帰属する中間利益は43億6,300万円(同444.8%増)となった。

主な事業セグメント別売上高は、産業資材が372億2,000万円(同9.3%増)、デバイスが362億7,300万円(同30.3%増)、メディカルテクノロジーが220億2,400万円(同27.2%増)となった。また、主な事業セグメント別の営業利益は、産業資材が26億9,900万円(同86.6%増)、メディカルテクノロジーが11億6,800万円(同13.6%増)となったほか、デバイスが18億7,300万円(前年同期は12億200万円の損失)と黒字を回復した。

産業資材は、加飾分野のモビリティ及び家電向けの製品需要が堅調に推移したほか、蒸着紙についても需要サイドの在庫調整正常化によって着実に回復。海外グループ会社の生産性・効率性改善も加わって増収増益となった。デバイスでは、前期において低調に推移したタブレット向けが今期の第2四半期(24年4~6月)には22年12月期後半の水準まで回復するなど好調に推移し、業務用端末向けも製品需要が回復。増収・黒字回復となり、利益率の改善トレンドも続いている(次ページの上のグラフ参照)。メディカルテクノロジーでは、主力のCDMOの製品

需要が堅調に推移したほか、企業買収による業績貢献も加わり、増収増益となった。

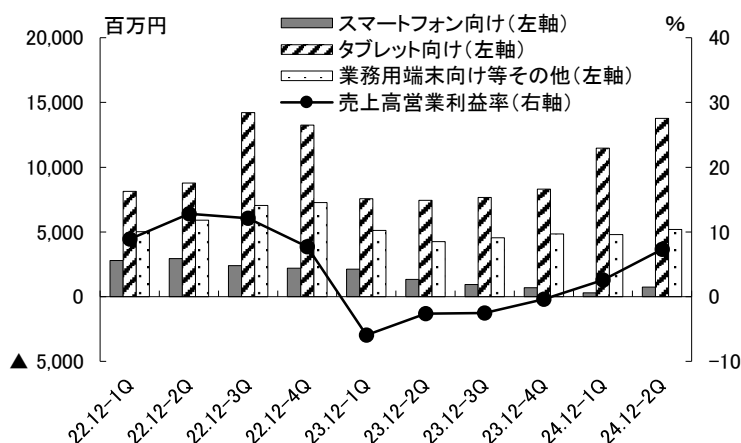
キャッシュ・フロー（以下、CF）の状況について、当期末における現金及び現金同等物の残高は449億1,700万円（前年同期末比4.1%減）となった。営業活動CFは、税引前中間利益61億4,700万円（前年同期比465.5%増）、営業債権及びその他の債権の増加額51億4,500万円（前年同期は減少額51億5,600万円）、営業債務及びその他の債務の増加額81億5,700万円（同減少額94億1,400万円）などにより、108億7,900万円の収入（同12億8,200万円の支出）になった。投資活動CFは、有形固定資産の取得による支出28億6,600万円（前年同期比56.1%増）、子会社及び関係会社の取得による支出97億600万円（前年同期は関係会社株式の取得による支出29億7,000万円）などにより、132億6,000万円の支出（前年同期比220.0%増）に。財務活動CFは、長短借入金の借入れ及び返済による差引収入額87億9,900万円（前年同期は1億400万円の支出）、親会社の所有者への配当金の支払額12億1,300万円（前年同期比29.7%減）などにより、58億1,000万円の収入（前年同期は42億5,200万円の支出）となった。

24年12月期の通期業績見通し…24年12月期の通期業績については、売上高1,966億円（前期比17.2%増）、営業利益81億円（前期は38億1,700万円の損失）、税引前利益95億円（同27億6,200万円の損失）、親会社の所有者に帰属する当期利益66億円（同29億8,800万円の損失）の見通しで、24年5月9日付けの会社側発表値（売上高1,886億円、営業利益64億円、税引前利益65億円、親会社の所有者に帰属する当期利益47億円）から増額修正されている。

主な事業セグメント別での売上高予想は、産業資材743億円（前期比8.1%増。修正前726億円）、デバイス690億円（同25.8%増。修正前655億円）、メディカルテクノロジー450億円（同25.0%増。修正前422億円）。また、営業利益予想は、産業資材53億円（前期は9,300万円。修正前42億円）、デバイス35億円（同15億8,000万円の損失。修正前30億円）、メディカルテクノロジー27億円（前期比80.8%増。修正無し）となっている。

本レポートは、会社側が発表した決算短信や決算説明資料などに基づき作成しており、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなされますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。

デバイスの売上高営業利益率と分野別売上の推移



メディカルテクノロジーの売上高営業利益率と分野別売上の推移

